

# 私立大学研究ブランディング事業

## 平成29（2017）年度の進捗状況

学校法人番号	131095	学校法人名	立教学院		
大学名	立教大学				
事業名	インクルーシブ・アカデミクス—生き物とこころの「健やかさと多様性」に関する包摂的研究				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	16600人
参画組織	理学部、現代心理学部				
事業概要	<p>加速するグローバル社会の中でストレスが増大している。本事業では、ストレスに対する分子・細胞レベルの解明を行う。また、メンタルヘルス問題が発現するメカニズムを心理学的に探究する。生命科学研究と心理学的研究を学際融合することで、生き物とこころの「健やかさと多様性」を包摂する新たな知見を得る。その成果として、精神的健康を高めるプログラムの提案を行い、立教大学のブランドとして社会に向けて発信する。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、ストレスについて生命科学研究と心理学的基礎研究の融合研究を行い、生き物とこころの「健やかさと多様性」をめぐる生物・人間理解と生活機能改善に関する新たな見解を公表することを目的とする。この取り組みをつうじて本学が自学のブランドとして重視する「豊かな知性」と「折れない心」の育成を、科学研究の側面から追究し補完・補強する。</p>				
②2017年度の実施目標及び実施計画	<p>総長統括の下、研究推進チーム(生命科学グループ・心理学グループ)、学内ブランディング推進・点検委員会、学外評価点検グループによる事業実施体制で、研究体制の充実と学内におけるブランディング戦略・事業全体のPDCAサイクルの一層の推進を図る。2017年度は、Webの他にセミナーやオープンキャンパスでの公開講演会などターゲット別の情報発信など、効果的なブランディング戦略の方針を検討する。研究面では、前年度に引き続き、融合研究の基盤として、ストレスが身体およびこころに与える影響について生命科学的解析と心理学的解析を行い、予備実験に基づいて解析手法を検討することを目標とする。具体的には、生命科学グループでは、様々なストレスによるモデル生物・細胞の変化を分子レベルで解析し、そのメカニズムを解析する。さらに、融合研究として前年度の協議をもとに、実験参加者からサンプルを取得して生化学的解析を行うとともに、環境ストレスとストレス関連行動の対応関係について統計的な分析を行う。一方、心理学グループでは、メンタルヘルス問題の発現過程における心理学的変化の測定技法の確立のため、その指標を用いた測定と検討を実施計画とした。</p>				
③2017年度の事業成果	<p>本年度の事業成果は、以下の通りである。 まず、研究成果の公開として、研究ブランディング事業の特設ホームページの充実を図り、立教大学のトップページから本事業の取組みと成果の閲覧を可能にした。また、オープンキャンパスでの公開講演会や外部講師を招いたセミナーを開催し、本事業の取組みや意義について広く情報発信を行った。さらに、学内の学生にも本事業の成果を還元すべく、生命理学科と心理学科共同の講義シリーズを企画し、その予備的授業を行ったところ、それぞれ新しい視点で学ぶことができ、受講生の知見が広がるなど非常に好評であった。 研究面では、生命科学グループと心理学グループの間で緊密な連携をはかり、融合研究を進めた。とくにヒトを実験参加者として精神作業ストレスを負荷した条件のもとで唾液検体を採取した。さらに唾液検体に含まれる生体物質の定量方法も確立した。引き続き検体の採取・分析を進めている。この融合研究によりストレスが生体に及ぼす影響を検討すると共に、ストレス低減に資するような介入技法の案出に必要なエビデンスを提供することができると確信する。さらに、ストレスによってうつを発症した患者からの唾液の採取・解析、ストレスを過敏に感知するASD児者の腸内環境や生活指標（活動・睡眠パターン）の測定などを行うプラットフォームの構築を行った。</p>				

<p><b>④2017年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p><b>(自己点検・評価)</b>  <b>◆学内ブランディング推進・点検委員会(2018年5月10日開催)と自己点検・評価</b>  学内ブランディング推進・点検委員会において、2017年度の融合研究の点検・評価とPDCAサイクルの促進、RIKKYO VISION 2024との連携、ブランド発信強化について点検と評価を行った。  2017年度も概ね計画通りに進捗している。研究面においては、融合研究の基盤を整備することができたため、次年度以降は融合研究がさらにスムーズに進むと期待できる。情報発信の面では、ホームページでの広報の充実を図り、公開講演会やセミナー、生命理学科と心理学科の共同講義を実施し、一般の方や受験生、学生などに向けて本事業の取組みと成果を広く発信し年度当初の目標は達成できたと考えられる。  <b>【学内ブランディング推進・点検委員会】</b>  [委員長] 研究推進担当副総長、リサーチ・イニシアティブセンター長  [副委員長] 総長室次長  [委員] 理学部長、現代心理学部長、財務部財務課長  総長室広報課長、総長室企画課長、総長室教学改革課長  [事務局] リサーチ・イニシアティブセンター</p> <p><b>(外部評価)</b>  <b>◆2017年度の外部評価(書面評価)</b>  概ね計画通り順調に進捗していると評価できる。本事業の特徴である生命科学と心理学の融合研究は高く評価できるが、その具体的な成果が早く出るよう研究を加速させ、融合研究から独創的成果を導き出す努力を一層強める必要がある。また、成果について外部への情報発信が十分に行われており、本事業が立教大学のブランド力向上に資する点も評価できる。  <b>【外部評価委員】</b>  [委員長] 岡野栄之 (慶應義塾大学医学研究科委員長)  [委員] 鍋島陽一 (公益財団法人先端医療振興財団先端医療センター長)  吉田秀郎 (兵庫県立大学大学院生命理学研究科教授)  秋山 剛 (NTT東日本関東病院 精神神経科 部長)  岡本泰昌 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授)  <b>【外部評価機関】</b>  塩野義製薬株式会社、社会福祉法人みのり福祉会</p>
<p><b>⑤2017年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>事業経費の執行については学内ブランディング推進・点検委員会において、ブランディング事業全体の方針確認と各年度の事業計画の承認、執行状況報告を行う管理体制を整えている。2017年度は、承認された事業計画に基づいて適切な執行を行った。  大学のブランディング戦略全体における成果発信のためのWEB記事作成、成果報告書印刷費用などに使用した。研究においては、生命科学グループにおいて、realtime PCR、DNA配列解析装置、共焦点レーザー顕微鏡の研究設備、実験機器、用品、試薬などを購入した。心理学グループでは、実験用品の購入、アンケート調査等の委託、調査旅費等に使用した。また、解析等に従事する研究員2名およびPD、教育研究コーディネーター等の人件費を使用した。その主な内訳は以下の通りである。  <b>■研究費</b>  [消耗品費] 試薬・文具等：5,754千円  [用品費] PC、プリンタ、水素吸入器、ハイパーマット、ソフト等：1,976千円  [研究用機器備品] マイクロプレートリーダー、蛍光実体顕微鏡、制御用PC等：4,333千円  [図書資料費] 書籍等：193千円  [旅費・海外出張費] 研究調査・講師旅費等：432千円  [その他委託費] アンケート調査委託等：1,032千円  [研究設備] realtime PCR、DNA配列解析装置、共焦点レーザー顕微鏡：58,991千円*  *私立大学等研究設備整備費等補助金申請  <b>■広報・普及費</b>  [報酬・手数料] 英文校正、外部評価、講師謝礼等：164千円  [印刷費] 成果報告書印刷：23千円  [その他委託費] WEB記事製作等：2,084千円  <b>■その他</b>  [兼務職員人件費] PD、教育研究コーディネーター、アルバイト人件費：4,910千円  [本務教員人件費] 研究員(助教R)：7,516千円</p>